

株式会社 丸中工業所

〈事業計画名〉画期的デザインである「混色ギョサン」の新規開発および高品質量産体制の確立



かつての不良品を新たな製品として企画 専用射出機で量産化を目指す

事業の背景

混色の不良品を新製品として

当地・御所市はかつて全国一のサンダル生産量を誇り、最盛期には市内に300社以上の製造・下請業者が存在した。しかし安価な海外製品に押されて減少し続け、今では製造業者は当社含め数社のみとなっている。

当社は国産の一体成型サンダルだからこそ実現する高耐久性を維持しつつ、基本的に単色成型ではあるがカラーバリエーションという付加価値、従来の地味な色以外に明るい色を増やす事で自社ブランドの価値を高めてきた。

製造時に色替えを行うと2色の原料が混ざった“混色品（不良品）”が発生するが、地味な色同士では目立たなかった混色品が、明るい色同士になる事で綺麗なマール模様になりデザイン性に優れて見えた為、アパレル関係などデザイン重視の顧客が気に入る可能性を感じた。

そこでサンプルとして顧客に提示すると好感触であり、製品化および量産化の要望が出たため、今まで事故的に発生した「混色マール模様」を1つのデザインとして製品化する事を計画。その為に専用の射出機の導入を検討した。

事業の成果

専用設計の射出機による量産化

混色品は、同一金型で樹脂ペレットの色を変更する際、射出機の構造上、それまでに製造していた色ペレットがシリンダ内に残り、次の色と混ざって成形される事で発生する。

通常であれば色の切り替え時に数分しか発生せず、模様も色のバランスも固定できなかった。製品化する為には、模様は固定出来ないで度外視するにしても、最低限2色の樹脂ペレットを均一に射出し、色のバランス・品質を安定化させる必要があった。

そこで、補助事業において樹脂ペレットの投入口（ホッパー）・シリンダを2基ずつ独立して搭載した射出機を導入。

これにより常時2色同時に射出する事が可能となり、シリンダ内部で1色に混ざる事も無く、配色バランスを均一化でき、安定して美しい「マール模様の混色ギョサン」の量産体制が整った。



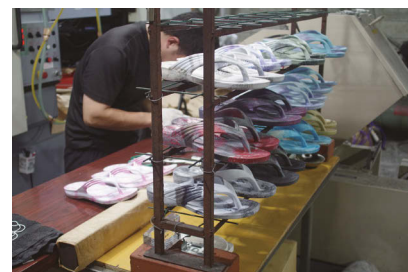
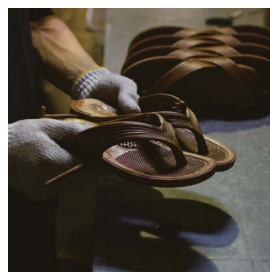
60年以上の実績で保証する品質の良さ

当社は1956年の創業以来、60年以上にわたって樹脂製サンダル製造に携わっている。創業当初は縫製・接着を行う一般的なサンダルを製造していたが、1960年頃に創業者がドイツ製の射出成型機と出会い、一体成型の樹脂サンダル製造へ移行していった。

当社が製造する一体成型サンダルは、種類・形状的に「カリプソサンダル」と呼ばれるもので、靴底と鼻緒が一体化している金型に樹脂を送り込むことで成形される為、鼻緒が取れる事無く丈夫で長持ちする実用性に富んだ履物である。当社では全ての製品を自社ブランド「PEARL印」の成型サンダルとして展開している。



MARUNAKA
highend.made in japan



当初は実用性を重視した製品開発を行っていたが、競合品との差別化を図る為、2003年頃よりデザイン性や履き心地を追求する方針に変更。その結果、漁業関係者が愛用する「ギョサン」として、数々のメディアに幅広く紹介されるなど、大きく飛躍する事ができた。

現在も斬新なカラーバリエーションやデザイン展開を豊富にする企業努力を続け、国内で7つ、米・中・韓でそれぞれ意匠登録を取得。そのファッション性に刺激を受けた顧客のアパレルメーカーが当社製品を新ブランド「マルナカハイエンド」として独自に展開する動きも2017年より始まった。

「ギョサン」と呼ばれる由来も含めて、顧客・ユーザーが当社製品を使って独自に新しい動きを生み出してくれるのは製造業冥利に尽きるものであり、今後も楽しんでもらえるよう高付加価値の製品開発と事業展開を続けていく。

株式会社丸中工業所の製品

漁業関係者が愛する「ギョサン」

当社の一体成型サンダルは「ギョサン」の愛称で知られており、水に濡れても滑りにくく耐久性は非常に高い。

カラーバリエーションは100色近くを豊富に取り揃えており、サイズはM~4Lまで5パターンを展開している。

中でも「マルナカハイエンド」として展開される製品は顧客からのオーダーにこだわりがあり、よりファッションアイテムとして使ってもらえるよう形状とカラーリングに対して「高級感」を重視した製品開発を行っている。

自社直販をしていない為、手に入れようとすると大阪まで行く必要があったが、最近では御所南PAや天理の温泉施設でも取り扱われるようになり、



奈良県内でも徐々に手に入る場所が増えてきた事はメーカーとしても大変有難い状況である。

そもそも何故「ギョサン」と呼ばれるのか。元々は問屋から西日本の小売店を中心に展開されていたが、2003年頃からデザイン性を重視した製品を展開すると関東方面にも広がり、巡り巡って小笠原諸島まで到達。現地の漁業組合で土産物として売られていたサンダルを漁師が使い始めたところ、滑りにくく頑丈である事から愛用者が増え、“漁業関係者が使用するサンダル”=「ギョサン」と呼ばれ始め、漁業関係者やマリンスポーツ、街中の普段履きなどに使用され始めたのである。

ちなみに、当社は自社製品が「ギョサン」と呼ばれている事を20年近く知らず、最近になってようやく認知したのは裏話の1つである。



株式会社 丸中工業所

業 種 分 類 プラスチック製品製造業
事 業 内 容 PEARL印 成型サンダル製造業

代 表 者 名 代表取締役 中井 良洋
所 在 地 奈良県御所市東松本276-4
連 絡 先 TEL:0745-65-1000/FAX:0745-65-1858
ホームページ <http://pearl31.ec-net.jp>
E - M A I L pearl.31@sirius.ocn.ne.jp